

緑の地球

GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



2023年8月のカササギの森。谷底が見えなくなるほど木々が成長している（右上は2004年8月撮影）

Contents

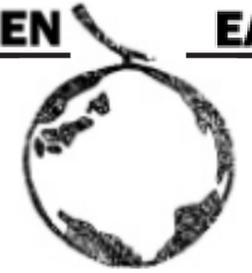
- コロナ後初めての中国訪問報告 P2～3
- GENなんでも勉強会・自然と親しむ会参加者募集 P4
- あの人の人 P6
- 黄土高原紀行<15> P7



GEN公式サイトリンク

2023.9
213

認定特定非営利活動法人 緑の地球ネットワーク



好久不見！

コロナ後初めての中国訪問報告

前回最後に中国を訪問したのが2019年11月。新型コロナ禍もようやく落ち着き、8月1日～9日の日程で3年9か月ぶりにスタッフ3名（高見邦雄副代表、東川貴子事務局長、高田望世話人）を派遣しました。北京、蔚県、大同それぞれでの活動を報告します。

■北京林学会メンバーと初めての対面ミーティング（北京）

北京での2日目（実質初日）は、古くからの支援者である劉洪才さん（中国国際交流協会副会長）、程永華さん（中日友好協会常務副会長）と面談しました。水害の状況や、中国のビザ取



程永華さん（写真右）と北京で再会

得の困難さなどにもふれながら、GENの協力を高く評価していただきました。

翌日は現在の緑化協力プロジェクトのカウンターパートである北京林学会と初めて対面でのミーティングを行うことができました。秘書長の智信さん、技術推進部部長の周長偉さんから5名と1時間ほど、お互いの活動の紹介などを行いました。

北京林学会は、学術面での活動、国際協力の活動を行い、さらに近年は自然教育に力を入れているということでした。緑化協力の継続に意欲的でしたが、自然教育の面でも協力ができれば、GENの活動の幅を広げることができそうです。



北京中心部の王府井は相変わらずにぎやか

■河北蔚県壺流河国家湿地公园を視察

北京から蔚県に向かう途中、八達嶺のあたりで崖崩れのための渋滞に巻き込まれ、蔚県に到着したのは午後3時ごろでしたが、そのあと壺流河国家湿地公园内の蔚県郷土樹木園を視察しました。植えた樹木は大きく育って、すっかり心地よい公園になっています。



豪雨がもたらした土砂崩れ



蔚県郷土樹木園の入口 右側に案内板

入ってすぐのところに「湿地学校」がつくられ、教室に机と椅子が並べられて子どもや市民に湿地保全や鳥類をはじめとする生態系保護の大切さを教えているということでした。



湿地学校の中を視察

■植栽実施地の確認と予定地の視察

陽眷鎮に緑化の場所を移してから、現地を訪問できずにいました。今回、2020年から2023年の8つのプロジェクト地のうち、6か所を訪ねることができました。北京林学会の周長偉さんも同行しました。おおむね順調に成



実をつけたサージ

夏季寄付のご協力ありがとうございます

49件 875,136円のご寄付をいただきました

前号で夏季寄付を呼びかけたところ、たくさんのご寄付をいただきましたのでご報告します。

7月15日から8月31日までにお寄せいただいた寄付は、875,136円、49件でした。まとまった額のご寄付をいただいたこともあり、金額、件数ともに昨年を上回りました。ご協力ありがとうございました。

4月からの累計寄付額は1,333,123

円となり、2023年度の寄付予算380万円の35%です。張家口市蔚県での緑化協力をはじめとするGENの活動に使わせていただきます。

GENの財政状況は厳しい状況です。引き続きご協力をいただくと大変ありがたいです。ご寄付はGENホームページ「応援する」ページからお申込みいただけます。（<https://gen-tree.org/support/>）

長していましたが、土壌が特殊で少し気がかりなところがあったり、今年のプロジェクで植えたサージの成長ぶりに驚いたり、やはり現場を見てみないとわからないことがありました。来年度の候補地も2か所訪ねましたが、どちらもかなり不便な場所で、蔚県でも緑化がすすんで交通便利な植樹好適地が少なくなってきているようです。しかしながら、実施が決まった村は面白そうなところで、ツアーでの作業はちょっと大変かもしれませんが楽しみでもあります。なお、蔚県でも水害で道路が崩れるなど被害が出ており、共青团も緑化会社も復旧で多忙な中、私たちを案内してくれました。



蔚県のマツ植栽地、生育は良好

■カササギの森、白登環保中心などを訪ねる（大同）

大同でも靈丘県で水害の影響があり、残念ながら南天門自然植物園に行くことはできませんでした。カササギの森では樹木の成長を観察しました。この間、大同から送られた写真や北京の李建華さんが訪問したときの動画などを見てはいましたが、やはり現地をみるとその変貌ぶりには驚かされます。采涼山への入り口から立派な2車線の舗装道路ができています。カササギの森の西側には風力発電の風車が林立していました。管理棟は訪問した日は無人でしたが、塗装しなおされていて何かに使われている様子がうかがえました。とにかくマツがよく育っていて、林の中へ入っていきける気がしませ



立派な道路を通って采涼山、カササギの森へ

ん。以前は地面に立って撮影していた谷を見下ろす写真も、もう地上からでは育ったマツにさえぎられて見通しがきかず、コンクリートの構造物の上に立って撮影しました。

マツの成長調査の結果は、樹高は順調に成長していたものの、直径の増加はにぶりはじめていました。マツが成長して混み合ってきたことが原因かもしれません。

私たちの訪問のすぐあとに新華社が取材に入り、多種類の樹木での植林を評価した記事を配信しました。

<https://news.livedoor.com/article/detail/24825051/>

白登環保中心（緑の地球環境センター）は総工会の職業訓練センターになっていましたが、さらに工人文化宮（市民のための公共施設）に管轄が移ったということで、活用方法を模索しているようです。マツなどの樹木はよく育っていました。胡楊が樹高3mほどに伸びて、すでに異形葉をつけていました。



マツの測定は7年ぶり



武春珍さん、王萍さんもお元気でした

■高速鉄道で北京へ

以前は一晩かけて夜行列車で移動していた距離が、大同南駅から北京北駅まで高速鉄道で2時間あまり。新幹線と変わらない快適さでした。私たちはチケットを発売しましたが、普通の乗客はスマホのアプリで改札を通っていきます。こんなところにも中国社会のデジタル化が見えました。



大同から北京へ高速鉄道で快適な移動

■収穫と課題

今回の派遣では、1) 北京で支援者と面談し、北京林学会と対面ミーティングをすること 2) 蔚県で植栽実施地を確認し、来年の候補地を視察すること 3) 大同でかつての協力拠点の現状を確かめ、写真を撮ってくることを目的としましたが、蔚県でも大同でも訪問直前の水害のために行けなかったところがありました。特に大同の南天門自然植物園を訪ねることができなかったのは残念です。一方で蔚県陽眷鎮では私たちが訪問できない間も着実に緑化をすすめていた様子を確認できました。また、北京林学会のみなさんとミーティングを行い、今後も協力を続けることを確認しました。（東川）

8月のGENなんでも勉強会 オンライン「4年ぶりの中国訪問報告会」をYouTubeで配信しています。今回紙面でご紹介しきれなかった内容もありますので、ぜひあわせてご覧ください。<https://youtu.be/9PwP4bmHjUM> 上のQRコードからお入りいただけます。



参加者募集中 GENインターン

GENでは大学生のインターン生を募集中です。多様なGENメンバーと共に環境について学び、考え、行動する経験をしてみませんか。詳細はGENウェブサイトをご覧ください。右のQRコードからも入れます。





参加者募集

9月以降のGENなんでも勉強会オンライン、GEN自然と親しむ会のご案内です。ぜひお気軽にご参加ください。右のQRコードからお申込みいただけます。



9月 GENなんでも勉強会オンライン
気候変動が中国古代文明の歴史を変えた
～それは黄土高原から始まった



歴史学者でGENメルマガの「黄土高原に生きた人々の歴史物語」をご執筆いただいている村松弘一さんに、気候変動と中国古代文明史についてお話しいたします。古代の都市遺跡や馬の牧場、秦はなぜ天下を統一できたのか、そしてなぜ漢王朝が滅び「三国志」の時代となったのかなど、「中国古代文明史の変動は黄土高原から始まった！」をキーワードに歴史を紐解きます。

- 手段：オンライン（Zoomを使用）
○講師：村松弘一さん（淑徳大学文学部歴史学科教授）
○参加費：無料（定員100名）
○申込：以下のいずれかの方法でお申込みください。
①9月26日までに件名を「9月オンライン勉強会参加希望」とし、本文にお名前を記入してGENまでメールを送る、またはGENウェブサイト「参加する」ページ（https://gentree.org/participate/）より申し込む
②9月27日14時までにイベント管理サイトPeatix（https://gennandemo24.peatix.com/）より申し込む

10月 GENなんでも勉強会オンライン
ボランティア活動の現場から
～大学生の社会参画について



国際ボランティア学生協会（IVUSA）の宮崎猛志さんに5月のシンポジウムで中国での植林活動についてご紹介いただきました。IVUSAは環境保護の活動以外にも国内外でさまざまなボランティア活動をおこなっており、GEN関東支部の宇久須プロジェクトでも一緒に活動しました。大学生が主体となって社会参画をすることの意義について宮崎猛志さんと一緒に考えます。

- 日時：10月24日（火）19時～20時30分ごろ
○手段：オンライン（Zoomを使用）
○講師：宮崎猛志さん（特活）国際ボランティア学生協会（IVUSA）理事
○参加費：無料（定員100名）
○申込：以下のいずれかの方法でお申込みください。
①10月20日までに件名を「10月オンライン勉強会参加希望」とし、本文に

11月の
GENなんでも勉強会
オンライン

- 山菜・きのこ狩りなど、森と人との関わりを研究しておられる東京大学の齊藤暖生さんにお話を伺います。
○日時：11月22日（水）19時～20時30分
○講師：齊藤暖生さん（東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林樹芸研究所講師）
○参加費：無料（定員100名）
○手段：オンライン（Zoomを使用）
※詳細は次号でお伝えします。

GEN自然と親しむ会
秋のきのこを探しに行こう

滝と紅葉で知られる箕面公園ですが探してみると様ざまなきのこが見つかります。シイ類、カン類が共生する箕面公園の森へ秋のきのこを探しに行きませんか。講師の栗栖敏浩さんに解説していただきますので初めての方もぜひご参加ください。

- 日時：10月28日（土）10時～15時ごろ
○場所：大阪府営箕面公園
○集合：10時に阪急箕面線「箕面」駅改札
○定員：15名（先着順）
○案内：栗栖敏浩さん（樹木医、（株）松本微生物研究所）
○参加費：700円
○持ち物：歩きやすい服装・靴、弁当、飲み物、敷物、雨具、あればきのこ図鑑
○問合せ・申込み：10月24日（火）までにお名前、生年月日、電話番号をGENまでお知らせください。QRコード、GENのホームページからもお申込みいただけます。（https://gentree.org/participate/）
※小雨決行

立花吉茂前代表の
エッセイをオンラインで
お読みいただけます

現在noteでメルマガのバックナンバーを公開していますが、あらたにGENの前代表立花吉茂さんによる会報での連載が読めるようになりました。『植物屋のこぼれ話』というタイトルで過去の連載を順番に公開していきます。右上のQRコードを読み取るか、以下のURLよりご覧いただけます。https://note.com/genmeru_maga/m/m7200af080b52



報告 都市部でもできる里山保全活動

南 大一郎さん（大阪市）

7月8日（土）、紫金山緑の会の活動に参加させていただくかたちでGEN自然と親しむ会「紫金山公園で里山整備」をおこないました。6名が参加しました。

「住宅街の中の公園で里山活動？」と思ったのが参加のきっかけです。紫金山は戦後ハゲ山の荒地から常緑樹の山へと遷移、地面は陰り多様性が減少し、コバノミツバツツジが咲かなくなってきた。そこから紫金山みどりの会ができ、活動は25年程になるそうです。段取り、注意喚起、道具の扱い、説明、道具容器一つとっても長年のノウハウが詰まった賜物だと感じました。今回の作業は、梅園の草刈り→梅の木一周穴掘り→肥料を入れる→穴埋め。コロナの影響でこのエリアは4年間整備ができていなかったそうで草が生い茂っていました。草刈りは希少な植物をも刈ってしまうように気をつけて鎌刈り。刈った草は敷いておくと雑草の芽生えを防げるそうです。穴

掘りは梅の根を切ってしまうように気をつけながら…、その後、牛糞と鶏糞の固形肥料を投入。樹も畑の肥料と一緒になんです（驚）。今年は豊作だったそうで休憩時にはおいしい梅ジュースをいただきました。来年もたくさん実りますように！
昼からは観察会。紫金山公園は大半が植樹ではなく実生から育った木で占められているようで様々な高木低木が生えていました。尾根部分にでると北側は常緑樹が茂った陰樹の森、斜面のある南側は2018年の台風で倒木しその後に来た照葉樹の林という対比がはっきり見え大変興味深かったです。
落ち葉が積もる山道を歩いていると多様なキノコ、苔、昆虫、種入の動物の糞、実生も多く、長年の里山保全活

動により多様性が戻ってきたんだなあと感慨深くなりました。自分の背丈を超えるヨモギ。イヌビワの実は大阪市内でよく見かける物の4倍近大しくてビックリ。狐や狸も生息しているとのこと（見てみたい）。カラスアゲハやヤマガラも身近で見られて和ませてくれました。

今回参加させていただき、改めて保全活動の大事さと、里山は山間部だけではない事に気づかせていただきました。ありがとうございました。



報告 公園は広がる

安藤 貞利さん（GEN会員）

7月27日（木）、GENなんでも勉強会オンライン「知ると楽しい公園のあれこれ」をおこない、22名が参加しました。今回、YouTubeでの配信はありませんが、GEN会員の方はウェブサイトの「会員さま限定ページ」で10月31日までご覧いただけます。右のQRコードからも入れます。



私は学生時代から山歩きを始めて、いまは関東の低山歩きをしている。公園というたまたま自然公園、特に国立公園が頭に浮かぶが、前中先生のお話で様ざまな公園を系統だった説明していただき、だいぶ頭の中の整理できた。公園が明治に太政官布告で設置されていった歴史から始まって、公園と呼ばれる様ざまな空間についての話を、興味を持ってお聞きした。都市公園の種類の多さには驚いたが、わが町の川崎の一つの区を当たってみると、広域公園43ha、地区公園4ha、近隣公園1.5haが1か所ずつ、街区公園（児童公園）が80か所もあった。街区公園は、都市の中で空き地にできたような公園であまり緑がない状態で、子供の遊び

場といったところで、誰もが休息できる場としてももう少し木々があればと感じている。特に関心のある自然公園は、国立公園、国定公園があるが、低山歩きの道で去年から歩いているのが、関東ふれあいの道。公園という枠の中ではなく、地域をつないで関東1都6県をつなぐ道。環境省が音頭をとって各都県が道を整備している。平地歩きも山歩きもあるルートがあり、歩く目標として参考にしている。
また、日本ジオパークネットワークが認定しているジオパークが今までの公園の枠にはまらない形でできている。地質遺産を取り上げて、地球の過去から未来を考えるという思考で作られた公園で、南熊野ジオパーク、恐竜

渓谷ふくい勝山、白山手取川ユネスコ世界ジオパークなど46か所が指定されている。植物と地層の関係を研究している小泉武栄先生が山の自然学という講座をやっている、先生はジオパークを巡り歩いて講座でも取り上げている。山稜での植生は山の地質によって違いが出てくるという話をしてくださり、山の自然林が場所によって違うのは地質にも関係していることが面白い。

公園という概念は、時代によって変わってくるので、都市公園は子供、青年、老人が抵抗なく行くことができる場所になればと思う。

国内スタディツアーについて

前号で国内ツアーとして「コウノトリの郷見学ツアー」をご案内をしましたが、GENのツアーとしてより魅力あるものにするため、再度場所と内容を検討し、改めてツアーを企画することにしました。楽しみにしていた方には申し訳ありません。決まりましたら改めてご案内いたします。

あの人 この人

「あの人この人」では、個性豊かなGEN会員のあれこれをご紹介します。今回は大滝真緒さん。学生時代の先生、先輩との出会いがGENと結び付けてくれました。このコーナーではご自身を紹介して下さるGEN会員を募集しています。また、「会員のこの人を紹介してほしい」という方がいましたらぜひGENまでお知らせください。

大滝 真緒 さん (和歌山県)



現在、和歌山でNPO職員をしています。数年前、子どもたちと一緒に環境のことを学ぶ、大人たちにはこれまで

続けてきた活動のバトンを次の世代に繋いでもらう、というイベントに関わったことがきっかけでNPOで働くことにしました。今は、子育て世代をはじめ様ざまな世代の方と一緒に、食品ロス対策を気軽に続けられるようなアイデアを出し合ったり、共有したりしています。

例えば去年は、使い道に困ったり賞味期限が近づいた食材を持ち寄り、その食材で調理をするという企画をしたのですが「どこのお土産?」「こんな食材があるんや!」と、みんなでワーワー言いながらの調理は某番組の食材にお金をかけずに料理をする企画のようで面白かったです。「1人の100歩ではなく100人の一歩」を目標に、ほかにも少しの工夫で食品ロスを減らせることはないかと日々模索中です(<https://note.com/foodandlivingpi>)。

今回、投稿の機会をいただき入会年を確認すると、ちょうどGENが20周年の時だったことがわかりました。入会のきっかけは学生時代の先輩(小倉亜紗美さんと川崎正人さん)に誘ってもらってGENの事務所を訪ねたことでした。私がボランティア活動に興味を持ったのはさらに10年くらい前になります。当時、高専に入学し、たくさんの人に来て多くの考え方や多くのことを知りたいと思っていた私が出会った

のが、担任の岡元司先生でした。「地球規模で考えて、身近なところで行動する」という考え方を先生から聞き、和歌山でできることはある!と、先生や先輩に憧れて参加したボランティアサークル(※)で“Think Globally, Act Locally”を軸に、学校裏の海岸のごみ拾いや、地域の森林整備などの活動を続けました。

その後、大学で内蒙古の乾燥地の植物を研究する先生方に出会い、現地の植物に触れる機会もいただいたことは、地球規模で考える視野が広がる経験でした。そんななか、GENのことは先生や先輩からことあるごとに聞いており、いつかは私も一員になりたいと思っていたので、会員証が届いた時は嬉しかったです。

冒頭のイベントには「君とつくる未来の地球」というサブタイトルをつけました。これから地球はどうなっていくの?心配はつきませんが、我が子だけでなく未来の子どもたちに「お母さんたちはここまでがんばったよ!」と胸を張って言える自分でいたいと思っています。

※環境・福祉ボランティアサークルは、今年「国土交通省近畿地方整備局長表彰」を受賞したそうです。
(<https://www.wakayama-nct.ac.jp/docs/2023072400019/>)

本の紹介

『戦国日本を見た中国人 海の物語』『日本一鑑』を読む』上田信著/講談社選書メチエ/1,700円+税

関東 brunch の上田信先生(立教大学教授)の新著です。

16世紀半ば、明から海を渡って日本に赴いた鄭舜功が戦国時代の武士や庶民と交流し、生活習慣、日本刀の精神性、切腹の作法、男女の人口比など多岐にわたって当時の日本の実情を記したルポルタージュ、『日本一鑑』に基づいて、戦国日本を海の物語として読み解きます。



去年は折り紙などを用意して交流しました

- 入場料: 無料
- 問合せ: 大阪自然史フェスティバル事務局 (大阪市東住吉区長居公園1-23 大阪市立自然史博物館内 tel.06-6697-6262 fax.06-6697-6225 e-mail:mus-nh.city.osaka.jp)

大阪自然史フェスティバルに出展します

大阪自然史フェスティバルは関西の自然保護団体などが活動を紹介し、交流を深める場として続いているイベントで、GENもブース出展します。当日お手伝いいただける方を募集していますので、興味のある方はGENまでご連絡ください。

- 日時: 2023年11月18日(土)~19日(日) 9時30分~16時30分
- 会場: 大阪市立自然史博物館(大阪市東住吉区長居公園1-23 大阪メトロ御堂筋線「長居」駅3号出口より東へ800m)
- 主催: 認定NPO法人大阪自然史センター 大阪市立自然史博物館 関西自然保護機構

黄土高原紀行<15> 五、五台山めぐり(1)

いうまでもなく五台山は、東アジア仏教圏の聖地の一つ。

話はさかのぼるが、1995年10月末、敦煌に行ったとき、莫高窟第61窟の奥壁いっぱい、壮大にして細密な「五台山図」(高さ3.42×全長13.45メートル)が描かれているのを見たことがある。

絵には、いうところの中台を真ん中にして、東・北・西・南と四つの頂きがそびえ、中段の山々には大小170余の堂塔伽藍が点在し、下段には参詣人と道中風景が描かれていた。仏画・仏像がぎっしりつまった“砂漠の大画廊”=莫高窟のなかでは、歴史絵巻の「張議潮出行図」(全長8.55メートル)とともに名勝絵図の「五台山図」は、きわめて目立つ存在といえるだろう。

そもそも「五台山図」というのは、唐の高宗(650~683在位)が長安・会昌寺の僧を現地に派遣し、描かせたものが最初で、そのあと巡礼や五台山詣での名勝図絵として数多く制作されるようになった。平安時代に五台山をおとずれた円仁(794~864)は、巡礼後、同行してくれた汾州(山西省中部)の僧から、「五台山化現図」を贈られている。莫高窟の第61窟は、唐末~宋初の帰義軍時代、この地を支配した有力者による造営だから、壁画「五台山図」はこのころ描かれたものだろう。

つまり、敦煌で「五台山図」に接した7年後の2002年になって、初めて五台山をおとずれたわけだが、については簡単な予備知識を記しておこう。

五台山は西晋の末まづ神仙道の霊場として開かれたらしいが、東晋のころ中国に入った『華嚴経』が「東北方に菩薩の住処あり、清涼山と名づく」といったのをうけて、この清涼山を五台山になぞらえる考え方が出てきた。北魏の末ごろまでには、五台山をもって文殊菩薩の住地とし、多くの寺廟が建立された。それには国家による支援によるところが多く、北齊のころ山中の

谷口 義介 (GEN会員)

伽藍は200をこえた、という。

唐代には文殊信仰がますます盛んになり、それにつれて360寺にふえた。高宗が北京から僧をつかわして「五台山図」を描かせたのは、このころのことだ。なかでも金閣寺において西域僧不空三藏(705~774)が、密教で重んじられる陀羅尼(真言)と文殊信仰をむすびつけたことにより国家の安寧を説くと、唐朝の絶大な支援をうけることとなった。

しかし、唐の会昌5年(845)、武宗により廃仏が断行されるや、五台山もその影響をこうむらざるをえなくなった。さらに宋代以後は衰退して、寺院の数は72に減じた。

(このころ、はるか漠北の敦煌の地では、それを知ってか知らずか、大小170余の堂塔伽藍をふくむ「五台山図」が描かれている)。



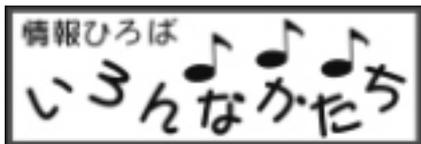
菩薩頂から北台・中台・西台を望む

万年中国語学習者のつばやき

十数年前、日本から上海に渡るフェリーで出会った青年が「賈樟柯(ジャ・ジャンクー)監督の『青の稲妻』に衝撃を受けて自分の目で中国を見たくなった」と旅の目的を話していました。その時の私は監督も作品もGENの存在も知らず、「へえ~」と間の抜けた返ししかできませんでしたが、賈樟柯は世界三大映画祭すべてで賞を受賞している著名な映画監督です。2002年の作品「青の稲妻」は大岡が舞台ですが、賈樟柯

は山西省出身なんですね。その時GENを知っていたらもっと話が盛り上がりGENのツアーに誘えたはずなのに!と悔やまれます。賈樟柯の映画は大岡が舞台の作品がいくつかあり、桑乾河(と思われる)にかかる橋や石炭火力発電所、埃っぽい街並みが映るだけでもグッとくるものがあります。ちょっと前の山西省の景色を見たいときは賈樟柯の作品がおすすめです。(河本)





シンポジウム

森林が主導するネイチャーポジティブ
～生物多様性の研究と
実践の最前線～

生物多様性の損失を食い止めるための国際的な取り組みが加速するなか、森林の生物多様性の最近の研究結果、それにかかわる民間の取組みを2回に分けて紹介します。

- 日時：第1回2023年10月31日／第2回2023年12月6日（時間はともに13時～16時）
- 開催方法：Webexによるオンライン開催
- 内容：【第1回】森林のOECMによる30by30への貢献を考える（1）日本のOECMの可能性と課題～森林の視点から～久保田康裕氏（琉球大学）（2）林業の中での生物多様性の回復2-1自然保護区からモザイク管理へ：保持林業と景観配置 山浦悠一氏（森林総合研究所）2-2老齢林の持つ生態系機能を森林管理に活かす 野口麻穂子氏（森林総合研究所）（3）民間開発事業における森林創出と生物多様性回復への取組み 鈴木菜々子氏（大成建設株式会社）（4）パネルディスカッション・質疑応答
- 【第2回】生物多様性の保全・回復

* 当欄掲載のイベント情報は掲載時点のもので、その後変更になる可能性があります。主催者にお確かめのうえ、ご参加ください。
* 当欄に情報をお寄せください。本紙は奇数月15日ごろの発行で、締切は前月の末です。なお、紙面の都合により掲載できない場合があります。ご了承ください。

- と森林のビジネス（1）ビジネスにおける森林の生物多様性へのインパクト評価をどこまで定量的に行うべきなのか？森章氏（東京大学）（2）森林サービス産業による収益と森林経営 平野悠一郎氏（森林総合研究所）（3）南三陸森林管理協議会の取組み—FSC認証とTNFDの親和性調査の報告—佐藤太一氏（株式会社佐久）（4）パネルディスカッション・質疑応答
- 申込方法：申込フォーム(<https://www.ffpri.affrc.go.jp/event/2023/20231031sympo-yoyaku/index.html>)よりお申し込みください。
- 主催・問い合わせ：国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所シンポジウム事務局（e-mail: forest.np@ffpri.affrc.go.jp URL <https://www.ffpri.affrc.go.jp/event/2023/20231031symposium/index.html>）

（全6回）10月5日三川合流の自然観察・オリエンテーション 講師：菅井敬之／10月29日人の手と自然の力が作った淀川のワンドを観る 講師：河合典彦／11月12日亀の瀬の大規模な地滑り地帯とその防止策を観察 担当：田中則明／11月26日アニマルトラッキング：大阪の野生動物を青貝山周辺で探索 講師：池田裕計／12月10日バードウォッチング：渡り鳥の秘密を探る 担当：原田義則／12月23日奈良公園の自然とムササビの観察 担当：藤田嘉久
※雨天決行、開催場所や講師は変更になる場合があります。

- 塾費：8,000円（保険料込み、交通費は各自負担）
- 募集人数：20名（先着順）
- 申込み：e-mailまたはfaxで住所・氏名（フリガナ）、生年月日、職業、電話、メールアドレスを明記のうえ、下記まで。
- 問合せ：（公社）大阪自然環境保全協会「自然かんさつ塾」係（〒530-0041大阪市北区天神橋1-9-13ハイム天神橋202号 tel.06-6242-8720 fax.06-6881-8103 e-mail: juku@n-osaka.jp URL <https://www.nature.or.jp/training/juku/>）

すごい!を見つけるための
自然観察入門講座
自然かんさつ塾

自然観察を通して自然の営みを五感で感じる力を身に付ける講座です。初心者を対象に少人数でおこないます。
○日程：2023年10月15日～12月23日



会費・購読料・寄付・物品・ボランティアなど協力者のお名前（'23.7.1～'23.9.7、50音順、敬称略）